



かわせみ通信

3月号
2020年3月
Vol.127

発行所  株式会社 東海テクノ ECOTOLOGY & SCIENCE 本社/三重県四日市市午起2丁目4番18号(〒510-0023)
TEL.059-332-5122(代) http://www.tokai-techno.co.jp

未来を拓く 研究室訪問

当社では、事業レベルの高度化や新サービスの開発において多くの大学の先生に助言を頂いたり、共同研究をさせて頂いています。そんなお世話になっている先生の研究室を訪問し、1時間以上のインタビューの中から大胆に抜粋して未来技術の今をお伝えします。



三重大学大学院
生物資源学研究所 生物圏生命科学専攻
海洋生命分子化学講座
准教授 岡崎 文美 先生

◆先生と当社との関係

有用微生物を活用した次世代型農業技術開発における分析・評価手法の確立について共同研究を行い、貴重なご助言をいただいております。

先生の最近の研究

研究の内容	研究の魅力	研究の課題
海には陸上以上に多様な微生物が存在しており、見つかっていない微生物も多い。そこから新たな遺伝子や酵素を発見し、活用できないかというのが研究テーマ。実際に機能性食品原料や陸上養殖などに活用した実績も多い。	以前は環境中の微生物の1%以下しか培養できないと言われていたが、次世代型シーケンサとバイオインフォマティクスの技術を組み合わせることで、残り99%の微生物にアクセスできるようになり、これは無限の可能性につながっていると感じる。	最近主に取り組んでいるβ-1,3-キシランは海藻にしか存在しないポリマーで、陸上では発見されていない。ここから作り出せるβ-1,3-キシロオリゴ糖は機能性希少オリゴ糖である。これをどう生かして実用化までこぎつけるかが課題です。

先生から伝えたいこと

海には未知の資源があり、遺伝子資源の宝庫。こういった研究が、人の健康や環境・社会に役立つためには実用化につながっていく必要があるため、一緒に活動してくれるパートナーが増えていくことを期待しています。

インタビューの感想

先生が企業にも在籍していたこともあり、一つのプロジェクトでも様々な角度から利益につながる提案をされ、実用化に繋げているということが強く印象に残りました。多くのご説明いただいた学術的なお話が割愛となり残念ではありますが、この分野の実用化が楽しみとなりました。

最近の法規制動向について

レベル3も対象!? 石綿飛散防止対策の強化

現在、解体等工事を行う際には、「石綿(アスベスト)の事前調査」や「調査結果の説明及び掲示」が必要となっていますが、2020年度には大気汚染防止法および労働安全衛生法に基づく石綿障害予防規則の双方の観点から飛散防止対策が、より強化される予定です。変更予定内容は下表の通りです。

「大気汚染防止法」改正(環境省)	「労働安全衛生法に基づく石綿障害予防規則」改正(厚生労働省)
建物の解体・改修工事時において、現在の規制に加え、 レベル3建材(アスベストを含有する成形版など)も対象 とし、建材の種類、除去工法及び工事の規模にかかわらず、原則 全ての工事が規制の対象 になり、 石綿有無の事前調査が義務付け されます。その他作業計画の策定や、記録の保存、除去時の漏洩管理なども強化の対象とされる予定です。	〈事前調査の充実と強化〉 〈事前調査結果等の届出の新設〉が改正のポイント。 アスベストの有無にかかわらず一定の要件を満たす工事を届出の対象へ。 ①解体工事部分の床面積の合計が80㎡以上の建築物の解体工事 ②請負金額が100万円以上である建築物の改修工事



パブリックコメント募集に 意見を提出する意味ってあるの?

大気汚染防止法の一部を改正する法案については、3/10に閣議決定が行われたんだけど、今後、第201回通常国会に提出・承認されていく予定。省令は6月頃に発表される見込みで、施行は12月頃になるのではないかと想定しているよ。法案が成立すると、より具体的な内容を定める政省令案が発表され、パブリックコメントの意見募集が行われるんだ。今回の改正は企業側にかかなり負担が大きくなると思われる法案だよ。意見提出によって、政省令内容に反映・変更される場合もあるから、不明瞭な点を指摘して提出することで、より改正内容が明確になるんだよ。こういったお知らせは、各省庁のホームページで日々更新されているから、気になる法案はチェックしていくと早めに対応ができると思うよ。



編集後記【市田淳一社長を偲ぶ】

去る3月7日、弊社社長市田淳一が急逝いたしました。このかわせみ通信は市田の思い入れが強く、創刊号の立ち上げより前号126号まで、企画立案から文章のチェック等の監修においても、携わっておりました。また紙面上段の「メイン記事」は毎号、一から執筆しており、その内容は環境だけにとどまらず、健康や医療、エネルギー、食、IT等幅広い分野で、題名も毎回こだわりながらお届けするという記事が多かったかと思えます。楽しみに読んでいただいていた読者様も多く、この先、同様の記事を掲載できないことは市田も無念であると思えます。この場をかりて皆様にお詫び申し上げます。今後も『かわせみ通信』は、市田の想いを引き継ぎ、「単なる広告媒体でない、皆様の業務や科学・工学的関心に直結する情報をお届けする月刊ニュースレター」として、継続してまいります。趣向は変わっていくかもしれませんが、今後とも弊社共々よろしく願いいたします。(かわせみ通信 編集部一同)

